

近代日本の小学校教科書における中国像

国際シンポジウム「中国と日本——その自画像と他画像——」(中国社会科学院日本研究所主催、2012年11月18日)

譚 建川

発表の構成

一、近代日本の教科書制度

二、各期の教科書における中国像

1. 登場した中国人の数量の変化

2. 中国関連記述の内容の変化

三、「『中国』は中国ではない」：日本人の他者
認識

一、近代日本の教科書制度

自由教科書期	1872－1885	1872－1879	開化啓蒙的性格の翻訳教科書
		1880－1885	儒教主義復活の教科書
検定教科書期	1886－1902	ナショナリズム育成の検定教科書	
国定教科書期	1903－1945	1903－1909	資本主義興盛期の比較的近代的教科書 （国定一期）
		1910－1917	家族国家観に基づく帝国主義段階の教科書 （国定二期）
		1918－1932	大正デモクラシー期の教科書（国定三期）
		1933－1940	ファシズム強化の教科書（国定四期）
		1941－1945	決戦体制下の軍事的教科書（国定五期）

二、各期の教科書における中国像

1. 登場した中国人の数量の変化

表1. 小学修身教科書に現れた中国人

教科書	課数	登場総人数	中国人登場数	人物名と徳目	登場の日本人の例
幼学綱要(巻1、2)(1882)	5徳目	47	25	舜、閔損、曹娥、王延、李密、徐積、帰鉞(孝行)、管仲、范式、朱暉、荀巨伯、徐晦、范纯仁(信義)、蘇武、諸葛亮、顔杲卿、岳飛、文天祥(忠義)、周の宣王、後漢鮑宣の妻、唐太宗の後長孫氏、明太祖の後順聖皇后(和順)、楊津、唐玄宗、王密(友愛)	神武天皇、仁明天皇、平重盛(孝行)、菅原道真、楠正成、楠正行(忠義)、雄略天皇、豊臣秀吉、富田信高(和順)、毛利元就(友愛)、豊臣秀吉、豊臣秀次、徳川秀忠(信義)等
普通小学修身談(1886)	82話	82	16	范式、呂元膺、張子載(信義)、車胤、歐陽修、祖莹(勉学)、黄香、王祥(孝行)、呂蒙正(徳量)、范纯仁(友愛)、魏昭(尊師)、晏嬰(節儉)、鐘離瑾(仁慈)、張堪(礼讓)、楊震(清廉)、孟子之母(勉学)	樵夫清七、矢田部黒麻呂、松平好房(孝行)、岩次(産業)、細井平洲、伊藤仁斎(勉学)、源義経(立志)等
高等尋常小学修身書(第1、2学年)(1903)	42課	45	1	藺相如(度量)	天照大神、神武天皇(仁恵) 日本武尊(忍耐)、豊臣秀吉(進取)、加藤清正(武勇)等
尋常小学修身書(巻3、4)(1918)	54課	32	0		皇后陛下、明治天皇(仁恵)、二宮金次郎(孝行)、徳川光圀(儉約)、楠正行(忠義)等
尋常小学修身書(巻1-6)(1936)	162課	62	1	孔子(徳行)	明治天皇、能久親王(仁恵)；楠正行(忠義)、渡邊登(孝行)、上杉鷹山(儉約)、加藤清正(武勇)

表2. 小学国語教科書に現れた中国人

教科書	課数	登場の総人数	中国人登場数	人物名と徳目	登場の日本人の例
小学読本 (巻4、5) (1873)	74課	67	11	李湜、孫敬、蘇秦(勉学)、韓伯瑜、閔損(孝行)、子罕、楊震(清廉)、孟子之母(劝学)、宋の雍氏(忠節)、季子(信義)、藺相如(度量)	利三郎吉十郎(孝行)、楠正行(忠義)等
小学中等科読本(巻1、2) (1885)	75課	32	6	呂望(信義)、孫叔敖(善良)、曹冲(知恵)、莊子(報恩)、韓信、愚公(忍耐)	豊臣秀吉(立志、勤務)、二宮金次郎(勉学、孝行)等
高等国語読本(巻1、2) (1900)	46課	9	2	孔子(徳行)、閔損(孝行)	仁徳天皇(仁恵)、岡田佐平次(公益)、奥貫五平次(慈悲)等
尋常小学読本(巻11、12) (1910)	56課	12	3	諸葛亮(忠義)、藺相如(度量)、孔子(徳行)	児島高德(忠義)、東郷平八郎(武勇)、赤穂浪士(忠義)等
初等科国語(巻8) (1944)	21課	9	2	孔子と顔回(師弟の友情)	赤穂浪士、楠正行(忠義)、日本兵士(武勇)等

登場した中国人に関する考察

□ 登場数

検定制実施以前：中国人の数が相対的に多い

検定制実施後： 登場数が急に減少した

□ 時代と階層

古代人物に集中
主に官僚、学者

□ 徳目

儒教的伝統的徳徳の「孝行」、「忠義」、「信義」が強調
「和順」、「友愛」と「勉学」、「節儉」、「度量」の例もある

「進取」、「公益」、「自立自営」、「博愛」が欠如

□ 記述の時代差

登場頻数の多い中国人：孔子、諸葛亮、藺相如
時代差がはっきり見えない

登場した日本人との比較

- 検定制度以後、登場の日本人の数は圧倒的に多い
 - 登場頻数の最も多い：明治天皇、二宮金次郎、源義経、加藤清正、豊臣秀吉等
 - 階層：
 - ①武人(武士・軍人)で、特に国定教科書期に戦争の影響で急激に増加
 - ②皇室関係(天皇、親王、皇后)(皇室中心・家族国家倫理を国民に強調した時代特徴)
 - 徳目
最も多い三位は「忠義」、「武勇」、「公益」
-

2. 中国関連記述の内容の変化

(1) 憧れから嫌悪へ(翻訳教科書期)

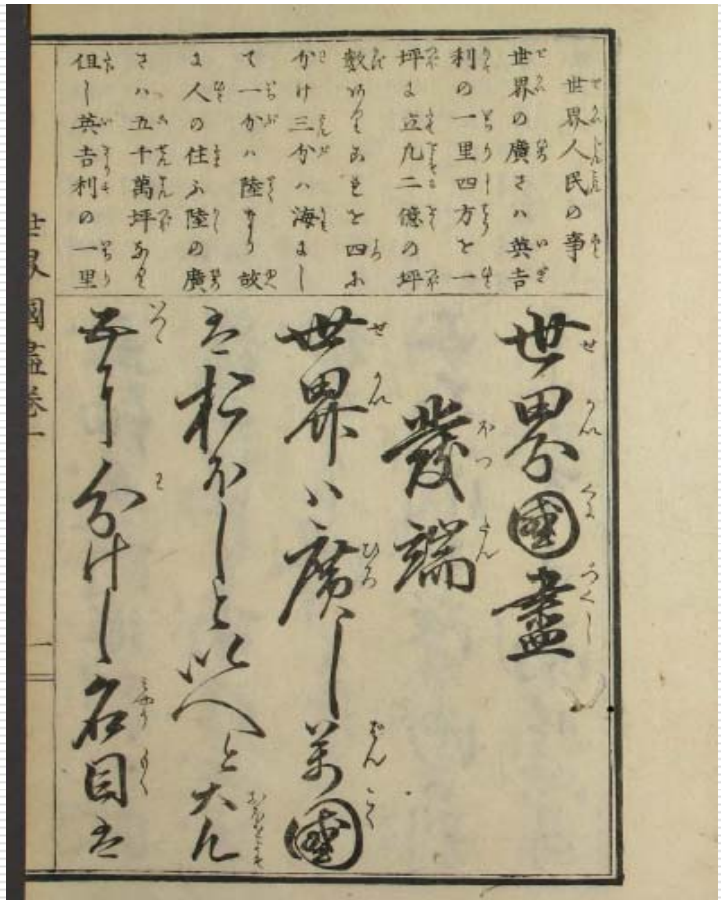
『童子教』(鎌倉中期)

匡衡為夜学	鑿壁招月光
孫敬為学文	閉戸不通人
蘇秦為学文	錐刺股不眠
俊敬為学文	繩懸頸不眠
車胤好夜学	聚螢為燈矣



□ 『世界国尽』(福沢諭吉、1869年)

支那の政事の立て方は西洋の語に「ですぽちつく」といへるものにて、唯上に立つ人の思ふ通りに事をなす風なるゆへ、**国中の**人皆俗にいう奉公人の根性になり、帳面前さへ濟めば一寸のがれといふ氣にて**真実に国の為を**思ふ者なく、遂に外国の侮りを受るよふになりたるなり。



『輿地志略』(内田正雄、
1870年)

古ヲ貴ミ今ヲ賤ミ自ラ尊大
ニシテ中華中国ト称シ外国
ヲ視ル夷狄禽獸ノ如ク。度々
信義ヲ外国ニ失ヒ其汗辱ヲ
蒙ルトモ依然トシテ旧習ヲ固
守シ海外ノ形勢ヲ察テ自ラ
一変スルヲ知ラズ。



(2)「復帰」の古代中国(儒教主義復興期)

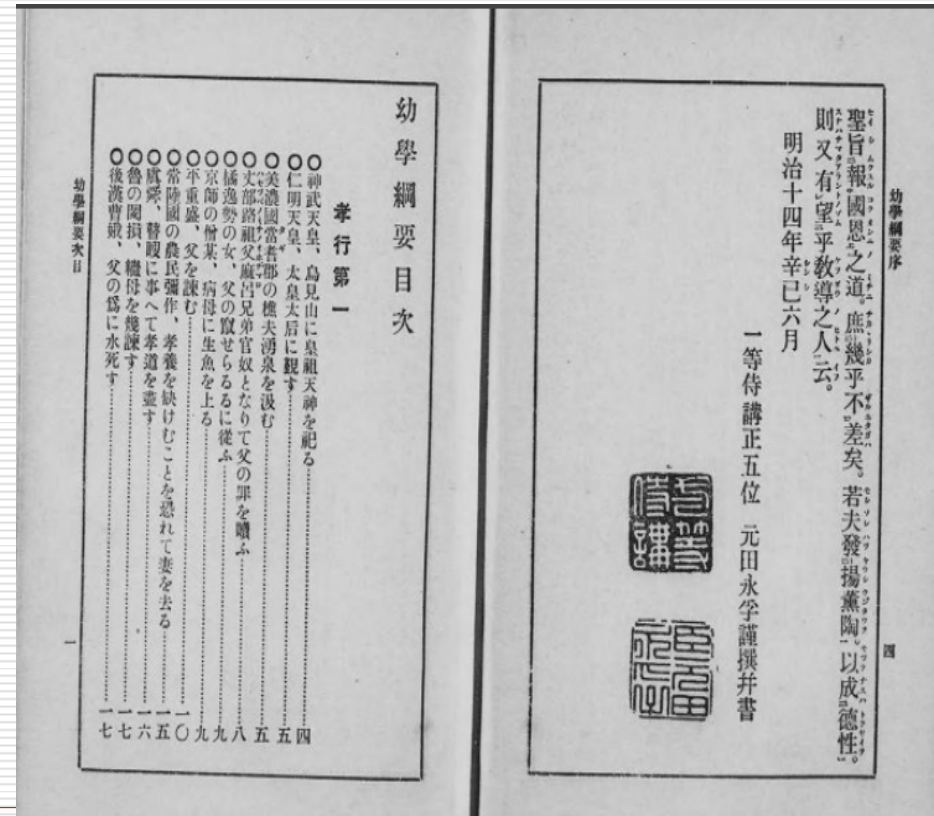
△『教学大旨』(1879年)

教学ノ要、仁義忠孝ヲ明カニシテ、智識才藝ヲ
究メ以テ人道ヲ盡スハ我祖訓國典ノ大旨……

自今以往祖宗ノ訓典ニ基ヅキ、専ラ仁義忠孝ヲ
明カニシ、**道德ノ学ハ孔子ヲ主トシテ**……

△『幼学綱要』(元田永孚、1882年)

「孝行、忠節、和順、
友愛、信義」に、
27名の中国人が登場
日本人の数とほぼ同じ



他邦の学をなすは、わが皇国の純粹なる道を助くるためなり。学問するもの、或は、外邦を本とし、皇国を末とするなり。これ、道の罪人なり。

山崎闇齋は……ある時、門弟に向かひ、今、支那国が孔子を主将とし、孟子を副将とし、数万の兵を率ゐるて、わが皇国に攻め来らば、孔子、孟子の道を学ぶ我が儕は、いかにせばよからむと問ひければ……身に堅甲を着し、手に利刀をとり、孔子、孟子を擒にして、国家無窮の鴻恩に報い奉るべし。これ、即、孔孟の道なりと。

—『高等小学修身書』(卷之二)第23課

(3) 敵対・侮蔑の中国(検定教科書期)

- △「小学校ノ教科書ハ**文部大臣ノ検定シタルモノ**に限ルベシ」
(1886年、『小学校令』)
 - △我ガ臣民**克ク忠ニ克ク孝ニ**、億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ、此レ我ガ國體ノ精華ニシテ、教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス……一旦緩急アレバ**義勇公ニ奉ジ、以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ**。(1890年、『教育ニ関スル勅語』)
 - △「修身教科書図書ニ掲載セル例話ハ**成ルベク本邦人ノ事跡ニシテ**勸善的ノモノタルベシ」(1891年、「小学校修身教科用図書検定標準」より)
-

□ 中国を背景化

中国と関連した戦争

教科書に出てきた日本の英雄

元寇来襲

河野通有

豊臣秀吉の朝鮮侵略

豊臣秀吉、加藤清正

中日甲午戦争(日清戦争)

成歡の役の喇叭卒(白神源次郎)、玄武門の先登者(三村中尉、原田一等兵)、上等兵小野、工兵隊

「成歡の役の喇叭卒」(『尋常小学読本教本』卷七、1894年)



□ 中国を差別化

中国記述

其の建築広壮なれど、道路悪しく、市街不潔なり。
世界の旧国なれど、今は、其の開化、大いに遅れたるのみならず、
頑固にして、新奇の事物を嫌ひ、好んで、旧弊を守る風あり。
—『小学地理』(巻三、普及社、1900年)

日本記述

我が国民は古より、忠実勇武を以て聞こえたる日本種族にして、上
に万世一系の皇室を戴き奉れり……年毎に日本種族に同化し行く
者多きをや。外人の我が邦を羨むも、無理ならぬことなり。
—『小学地理』(巻四、普及社、1900年)

国の比較

大とは、形の大小のみを言ふにあらず、質の立派なるをこそ、誠の
大と言ふべけれ。……領地広く、兵力強く、産物多く、国富み栄ゆと
も、悪しき事を行ふ国は、小国なり、卑むべし。……我が国は、地図
にて見れば、小さき国なれど、善人多く、大人多しと褒められたる国
ぞ。
—『国語読本 高等小学校用』(巻一、富山房、1900年)

(4) 劣等国と「美しい」国(国定教科書期)

△「小学校ノ教科用図書ハ文部省ニ於イテ著作権ヲ有スルモノタルヘシ」(1903年、『小学校令』)

△劣等国としての中国像の継続

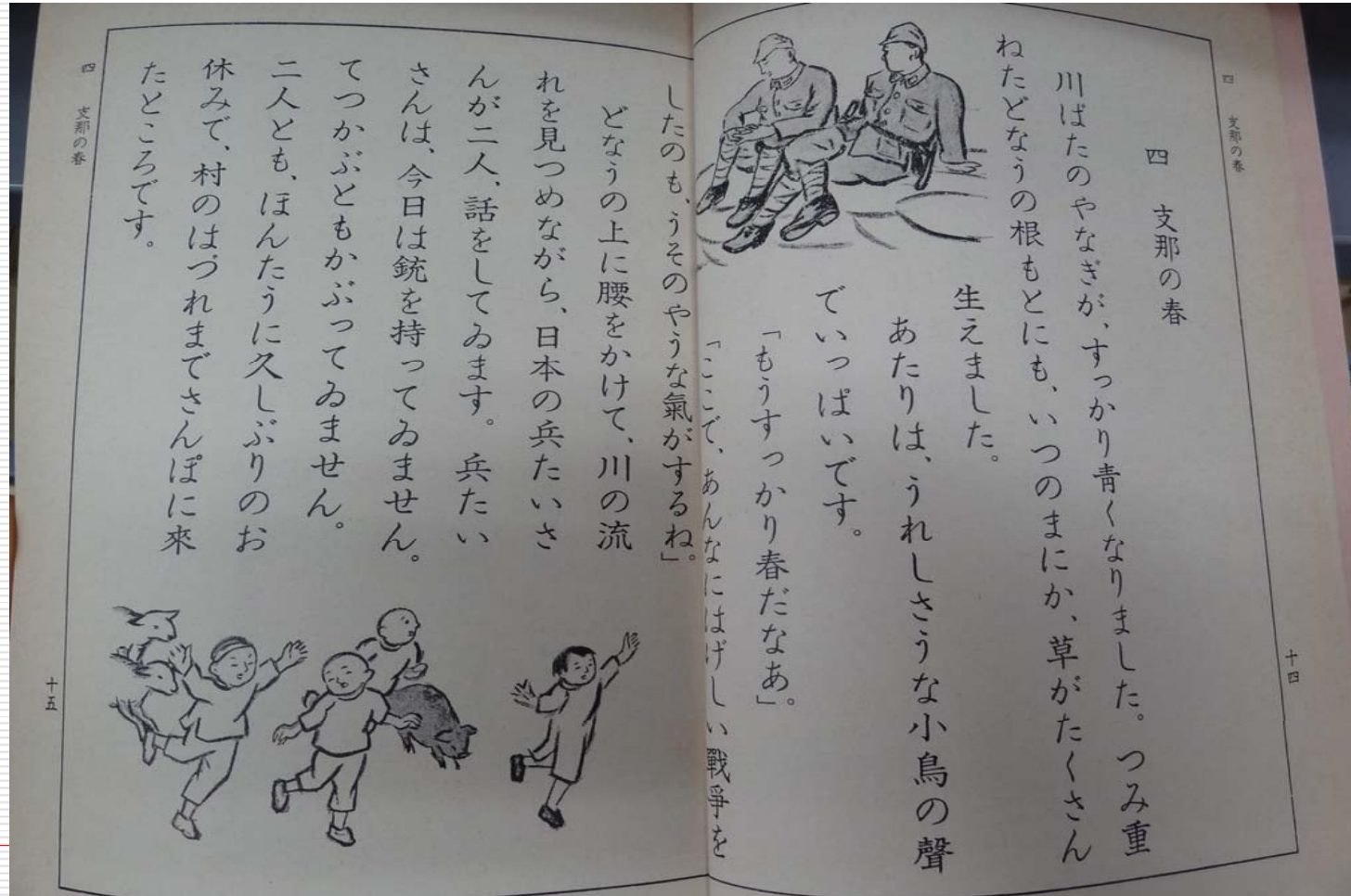
満州事変がひとまづをさまると、わが国は支那と停戦協定を結び、更に進んで日・満・支三国が互に助け合って、東洋永遠の平和を打ち立てることにつとめた。しかし、支那の政府はわが誠意を解せず、いたづらに欧米諸国の援助を頼みとして、あくまでもわが国の排斥を図り……わが国は、彼の誤った考えを正し、東洋の永遠の平和を打ち立てるために、正義の軍を進めることとなった。

—『小学国史・尋常科用』(下巻、1941年)

「美しい」中国像

テーマ	教科書	主な内容
「支那の子供」	『よみかた』第4冊、1941年	中国の子どもは「日の丸の旗」を歌いながら、日本兵に荷物の車を引くことを手伝っている。
「支那の春」	『初等科国語』第1冊、1942年	中国の子どもたちは川辺で日本兵と遊んでいる。氷砂糖を食べながら、「愛国行進曲」を歌っている。
「君が代少年」	『初等科国語』第3冊、1942年	1935年の台湾大地震の際に、徳坤という台湾少年は決して中国語を話さないで、『君が代』を歌いながら死んでいった。
「愛路少年隊」	『初等科国語』第6冊、1943年	日本軍の鉄路を守る中国少年「楊」は鉄路が破壊されているのを発見、その犯人をみつけて追跡するが逆に殺害される。楊は息を引き取る時に「日本万歳……」と言った。

「支那の春」(『初等科国語』第1冊、1942年)



三、「『中国』は中国ではない」：日本人の他者認識

- 『オリエンタリズム』(E・サイード、1935-2003)：
オリエンタリズムとは、「オリエントを支配し再構成し威圧するための西洋の様式なのである」。
⇒ 日本の教科書における「中国」は中国ではない
 - 国家の要求する立場から主観的な価値評価
 - 隣国中国の他者化・差異化により、国民的優位性と近代日本の国家政治を完成
-

-
- 教科書の効用: 国民の社会化 (socialization) の実現
 - 「教科書はただ教師と児童の中間に立ついわば媒体たるもの、として無造作に取り扱ふことは許されてゐない。むしろ教材はここで一層高い立場から提出されてゐる。」

—文部省図書監修官竹下直之(1943)

- 「なお最後に思いを致すべきは、指導を受ける者が大東亜共栄圏を建設し、世界の新たなる秩序を求める現代日本の動向をそのまま次代に於いて背負ひ立つ少国民であるといふことである。」

—『初等科修身教師要書』(1942)
